University　金城学院大学

金城学院中学生対象の「金城学院大学見学会」を開催しました。

秋晴れの10月28日（土）、“大学とはどんなところなのか見てみよう”をコンセプトに、金城学院中学生にとって初めてとなる金城学院大学見学会を開催しました。当日は中学生約200名と保護者が参加。第１部では中学校の16倍という広大なキャンパスを大学生が案内し、第２部では14学科/コースが用意した35のワークショップの中から興味に合わせて自由に体験してもらいました。早い時期に大学の学びに触れたことは貴重な機会になったのではないでしょうか。体験を終えた生徒たちが口々に「楽しかったね！」と話すのを聞き、会の成功を感じています。今後もこのような機会を通して、中学生や保護者の皆さまに金城学院大学を知っていただければと思います。

薬学科WORK SHOP

［ 薬剤師体験をしてみよう ］

グミを錠剤に見立てた一包化や、粉末ジュースを粉薬に見立てた水薬の調剤を行いました。一包化とは服用時間が同じ錠剤を一つの袋に入れてまとめる方法です。参加した皆さんは真剣に、そして楽しく薬剤師の体験をしました。

薬剤師の仕事を体験して薬剤師への興味・関心が深まりました。

八木亜美花さん（中２）

私の姉が金城学院大学の薬学部３年生で、「勉強は大変だけど、将来の目標が明確にあるから、毎日とても充実している」という話を聞いて、実際、姉はどんな環境で、どんなことを学んでいるのか、自分の目で確かめたいと思って見学会に参加しました。薬剤師体験では、お薬の一包化や水薬の調剤に挑戦。とても楽しく、薬剤師の仕事をより身近に感じることができました。キャンパスも広くてきれいで、設備も充実。何より、学生の方たちがみんな優しく、いきいきとしていて、私も将来、こんな素晴らしい環境で学ぶことができたら嬉しいなと思いました。

憧れのCAのお仕事を体験して学ぶ意欲が湧いてきました。

花谷桃佳さん（中３）

小さい頃から旅行が大好きで、CAさんが笑顔で乗客に接している姿に憧れていました。今日はそんなCAの体験ができるので、朝からワクワク。講師の先生もすごく素敵で、美しい姿勢やお辞儀の仕方など、日常生活にも応用できる所作をたくさん教えていただきました。また、英語にも敬語があるという話を聞いて、「英語をもっと勉強しよう！」という意欲が湧いてきました。将来は語学系か医療系に進みたいと思っていますが、中学生のうちに自分の将来を考えるよいきっかけが持てました。今日は本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

英語英米文化学科WORK SHOP

［ CA（キャビンアテンダント）の模擬体験 ］

英語英米文化学科では、CAの模擬体験を含め、３つのワークショップを実施。CA職場体験では「おもてなしの心とかたち」をテーマに、美しい立ち姿勢や飲み物の渡し方など、心が伝わる所作を体験しました。

Kindergarten　金城学院幼稚園

楽しく、賑やかに。幼稚園50周年記念バザー開催。

子どもたちも出店！

9月16日（土）、幼稚園50周年記念バザーを行いました。コロナ禍の影響で、ここ数年は在園児関係のみの開催でしたが、今年は４年ぶりに入場制限無しのバザーを行うことができました！50周年という記念の年のバザーということもあり、バザー委員さんをはじめ、たくさんの保護者の方たちが《みんなで50周年記念のバザーを盛り上げたい！！》という想いで、長い期間かけて準備をしてくださいました。当日は、在園児やそのご家族、卒園生や旧職員の方々、そして地域の方々、本当に多くの方たちが来てくださり、大賑わいでした。

嬉しい♪楽しい！がいっぱい。

毎年大人気の【子どもマーケット】では、多くの子どもたちが目を輝かせながら、一つひとつの商品をじっくり見て、選んで、レジに行列ができる程の大盛況！！大人に人気な【大人マーケット】では、保護者の方々の素晴らしい手作り品や、素敵な献品の数々に、「これも欲しい！」「迷う～！」という声がたくさん聞こえてきました。園庭では【園芸ショップ】も出ており、かわいいドライフラワーブーケや様々な種類の植物を目当てに多くの人が集まり、こちらも大盛況でした。そして今年は、【段ボールの巨大迷路】や【子ども縁日】など、子どもたちが楽しめる企画も盛りだくさん！大好きなお友だちやおうちの方と遊び回り、景品をもらって子どもたちも大喜びでした♪【ママポンズ】と【讃美歌＆手話の会】のステージにも多くのお客さんが集まり、こんなに近くで楽しいパネルシアターや素敵な歌声を聴くことができるなんて、本当に幸せだなぁと改めて思いました。

「讃美歌＆手話の会」のステージ

子どもたちもお店やさんに！

幼稚園の子どもたちも出店し、紙粘土を丸めたり、型抜きをして作ったメモスタンドや三つ編みストラップなど、子どもたちが一生懸命作った手作り品を販売。年長さんたちの「いらっしゃいませ～」「いかがですか～？」という元気な声と、とびきりの笑顔に、たくさんの方が購入してくださいました。卒園生が、「俺もこれ作ったな～」、「今の園の子たちが作ったものも欲しいな」と、自身の幼稚園時代を思い出しながら買ってくれる姿を見て、卒園生の成長した姿と優しい気持ちに、心が温かくなりました。

つながれる喜び。

今年のバザーで嬉しかったことは、卒園生と保護者の方たちがお店を出してくださったこと。コロナ禍以前は、毎年卒園生が出店してくださり、卒園してもずっとつながっていられる、それが金城学院幼稚園の良さであり、金城学院幼稚園ならではのバザーでした。しかし、コロナ禍でそれができなくなり、このままバザーと卒園生とのつながりが途絶えてしまうのでは…と不安に思っていました。けれど、今年「出店したい」と準備をしてくださった卒園生・保護者の方たちがいてくださったことが、本当に嬉しかったです。なんと、10年程前に卒園した子の保護者の方たちまで出店してくださり、10年前のバザーの映像を見せて頂いたり、「娘は高校生になったけれど、今の娘の基盤はこの園にある！ここで色々なことを学ばせてもらった」という言葉をかけて頂き、“卒園しても、ずっとみんなとつながっていられるこの園に関わることができて、本当に嬉しいなぁ”という気持ちでいっぱいになりました。

最後はみんなでフィナーレ！

バザーの最後は、かわいい天使さんたちがお祝いに来てくれたり、体操のお姉さんやパイナップルさん、カニーズさんたちと汗だくになりながら、一緒に元気いっぱい体操♪そして最後の最後には、大きなくす玉が・・・！！！ 50周年の記念バザーは大盛り上がりで終わることができました！これからも、たくさんの方とつながっていられるこのバザーを、大切に守り続けていきたいです。

職員もダンスを披露

「ママポンズ」のステージ

子ども縁日

卒園生が出店してくださったお店

子どもマーケットで売っていた髪飾り

巨大迷路

核のない、平和な世界をめざして「ヒロシマ平和交流会」に参加しました。

2023年8月1日（火）と2日（水）の2日間、金城YWCAの生徒13名が、広島の地で開催された「ヒロシマ平和交流会」に参加しました。これは広島女学院高校の核廃絶署名実行委員の生徒と金城YWCAが「平和」をキーワードに毎年行っている交流会で、今年で8回目の開催。コロナ禍にあった2020年から3年間はオンラインでの開催でしたが、今年は対面での交流会が復活しました。

原爆ドームの前で
ヒロシマ平和交流会の参加者が一堂に。

平和をテーマに両校でプレゼンテーションしました。

広島女学院高校の校内を案内していただきました。

校庭に設置された広島女学院原爆犠牲者の碑。

広島を訪れ、学んだ核の悲惨さ、平和の大切さ。

交流会1日目の会場は、広島女学院高校。午前中は、礼拝と、両校それぞれの平和のプレゼンテーションを行い、午後からは広島女学院の校内を見学。同校では原爆で350人が亡くなり、校内の慰霊碑には、亡くなった方々のお名前が刻まれていました。午後からは平和記念公園に場所を移し、広島女学院の皆さんの説明を受けながら慰霊碑めぐり。碑の説明はすべて自分たちで調べ、毎年アップデート。高校生である自分たちがすることで、「平和や戦争を身近なこととして受け止めてほしい」という思いがあるそうです。

2日目は両校とも平和記念公園に集合。平和資料館を見学後、広島女学院の生徒約40人と一緒に核廃絶署名活動を行い、行き交う人々に署名を呼びかけました。もちろん、署名は全員がしてくれません。断る人もいれば、「核は必要だ」と生徒に意見する人も。それでも、生徒たちの呼びかけに多くの人が賛同してくれ、目標を上回る署名が集まったことは大きな成果。「戦争についてもっと考えてみよう」、「平和の大切さをもっと多くの人に伝えよう」という思いを新たにするきっかけにもなりました。なお、この署名活動は、「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」として2008年に始まったもので、集めた署名は、平和首長会議を通して国連関係者に届けられます。本校でも毎年この署名活動に協力しており、今年も、しらゆり祭でYWCAの生徒が署名活動をし、544筆を集めました。

海外の方からも多くの協力をいただきました！

署名活動を通して多くの方と対話もできました。

交流会引率者の
沖崎学先生（宗教主事）と。

確かな手応えを感じた核廃絶署名活動。

早川 凛（3年生）

今回の交流会のメインイベントは、核廃絶の署名活動。最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、広島女学院の皆さんが明るく、元気にやっていることに勇気をもらいました。いざ始めてみると力が湧き上がり、気がついたら海外の人にも英語で呼びかけている自分がいました。署名活動を通してわかったのは、核兵器を持っていた方がよいと考える人もいるということ。でも、私はやっぱり核兵器の惨禍を2度と繰り返してはいけないと思うし、唯一の被爆国、日本にいるからこそ、核廃絶や平和の大切さを世界に訴え続けなければいけないと思っています。今回の交流会に金城YWCAの1年生がたくさん参加してくれたのも嬉しかったし、愛と友情を持って私たちを迎えてくれた広島女学院の皆さんにも、感謝の気持ちでいっぱいです。

世界の誰もが平和だと思える未来をつくっていきたい。

新海いろは（3年生）

私がYWCAの活動を始めたきっかけは、去年の「平和を考える日」でYWCAの3年生が「ウクライナ支援の現状と課題」というテーマで精力的に活動をしている姿を見て、カッコいいなと思ったこと。私も先輩と同じように平和の種まきをしたいと思いました。今回の「ヒロシマ交流会」に参加して感じたことは、広島女学院の皆さんは自身の学校の先輩たちが何人も亡くなったり、被爆者の方が身近にいて、ふだんから戦争や平和について話し合う機会も多く、私たちとは平和への思いの強さが違うなということ。海外から来た人たちに、英語で平和の大切さを訴えている姿にも良い刺激を受けました。世界各地で戦争が起きている今だからこそ、平和の大切さについてもっと学び、声をあげていくことが大事だと強く感じました。

Junior High School　金城学院中学校

夏休み理科探究ワークショップで重力加速度gの測定に挑戦！

2023年8月24 日（木）、第一理科実験室で中学３年生対象の「夏休み理科探究ワークショップ」を行いました。探究テーマは「重力加速度の測定」。参加した12名の生徒は４つの班に分かれ、それぞれが違う手法で重力加速度の測定に挑みました。夏休みの1日を使った測定実験の結果は。見つかった課題は――。ワークショップを企画した堀川裕明先生と、参加した４名の生徒に話を聞きました。

身近なものを使って、重力加速度を測ろう。

8時30分から始まったワークショップは高校物理の講義からスタート。というのも、重力加速度は高校物理で学ぶもので、加速度を求める計算式も高校数学の知識が必要なため。生徒たちは「難しい」と言いながらも、真剣に取り組んでいました。ちなみに重力加速度とは物体が落下するときに重力がかかることによって生じる加速度のことで、その大きさは物体の重さや形によらず、およそ9.8m/s²。その値は測る場所によってわずかに異なります。今回は、この重力加速度の大きさを「自由落下運動」「力学台車の斜面の加速」、「単振り子の周期を利用」の３通りの方法で測定。生徒たちは班ごとに分かれ、それぞれ違う手法で測定実験に取り組みました。

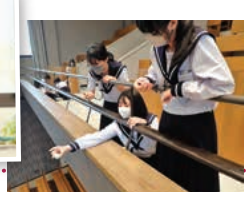
驚きと発見、感動でいっぱいの一日に。

「今回のワークショップの目的は、身近にある題材を科学という窓から見て、科学への興味や理解を深めてもらうこと」と、堀川先生。「虹が出る。飛行機が飛ぶ。物が下に落ちる。これ、みんな科学なんです。じゃあ、その裏にどういう理論があるのか。それを実験やレポート作成を通して探り、理解してほしいな、と。そのためにも、正確な数値を求めることよりも、手法を工夫したり、誤差の原因を検討することに主眼を置いた」と言います。生徒たちは見事その期待に応え、良い結果を出してくれました。また、「はじめまして」で始まったグループの生徒同士に連帯感が生まれ、協働で課題解決に取り組めたのも大きな成果。今後も継続してやっていきたいです。

理科教員　堀川 裕明

自由落下運動による g（重力加速度）の測定。

私たちは、ある高さからボールを落下させ、そのときにかかる時間を測定することでgを測定しました。最初は２つのチームそれぞれでやっていたのですが、誤差を小さくすることを目的に合同で実験を続行。高さをさらに高くする、ボールを変えてみる、ストップウオッチを押すタイミングを工夫するなど、試行錯誤しながら実験を繰り返したのですが、測定者が人間なのでどうしても誤差が生まれてしまう。実験を何回か繰り返すことで疲れや慣れによる誤差を小さくし、納得のいく結果を出すことができると思うので、ぜひみんなで再挑戦したいと思っています。



左から井上明美さん、新井しなのさん

A玉を転がして gを測定。

私たちは、レールの角度や長さを変えながらA玉（ラムネ瓶に入っているガラス玉）を転がし、各条件下で10回ずつ測ることでgを求めました。最初はストップウォッチを押すタイミングがずれ、誤差も大きかったのですが、慣れるに従って揃った数値が出るようになりました。実験を通してわかったことは、急な角度で距離が短いほど誤差が出にくいこと、A玉が転がるときにエネルギーの一部は摩擦エネルギーや音エネルギーに変わるので、数値はgの基準値より大きくなることはない、ということ。高校レベルの物理や数学に挑戦できたことも楽しかったです。

祖父江友理さん

振り子の振動を利用して gを求めました。

振り子の周期を測定することでgを求めました。おもり、ボール、50円玉、ドーナツ型の磁石を使い、それぞれ30回往復する時間を計り、その時間を30で割って１往復にかかった時間を計算。それを計算式に当てはめてgを割り出しました。おもりは重心がわかりにくいこと、ボールや磁石は円運動が加わって基準値を大きくずれてしまうことから、50円玉を使い、振り子の振れ幅を小さくすることで回転を極力小さくした結果、9.78m/s²と、愛知県の重力加速度 9.79に近い数値が出ました。充実感のある楽しい1日を過ごし、物理がますます好きになりました。

加藤瑠奈さん